

本科2期確認テスト講評(中1生)

●英語●

・中1選抜東大英語(1EJSS)

今回の確認テストでは、多岐に渡る表現が出題されました。疑問詞を使った表現などを正確に覚えているか、また進行形、過去形といった時制について確実に理解できているかがポイントとなっています。特にこれらの文法の基本を問う【3】で失点した人は、間違えた箇所を中心に、各項目について丁寧に復習しましょう。

また、【8】【9】の英作文は難しく感じた人も多かったかもしれません。今回作文の点数があまり伸びなかった人は、焦らずにまずテキストの基本例文を見直し、正確に書けるように訓練しましょう。自分が伝えたいことを表現するためには、まず基本をしっかり頭に入れ、それを自在に応用できるよう練習する必要があります。ミスなく、正しく英文を書くことができるようになるためには、授業での理解だけでなく、自分でも実践してみることが大切ですので、自宅学習の際に例文の音読や書く練習を積極的に行うよう習慣づけていきましょう。英作文はまず、書き慣れることが必要です。自分で採点が難しいことが多いと思うので、自習で書いてみたら先生に見てもらうなどでできればいいですね。

・中1英語(1EJS)

今回の確認テストでは動詞の活用を中心に、疑問詞を使った表現などを正確に覚えているか、また進行形、過去形などの時制をしっかりと理解できているかがポイントになりました。動詞をing形や過去形にするとき、正しいスペルで書くことができますか。動詞の「形」だけでなく、文の中で適切に使い分けられていますか。まだ自信がもてないという人は、今回のテストを機に、使いこなせるようになるまで基本的な例文を使って練習を重ねましょう。また、疑問詞を用いる表現では、「何」を問う文にするのかを、きちんと判断しましょう。

【3】の[C]などの英作文をきちんと書けている人は、2期に扱った単元がしっかりと身についています。難しく感じた人は、まずは、普段から基本例文を覚え、正確に書けるように訓練しましょう。1週間ではたったの10文ですが、中学3年間で1000文前後の英文を覚えることになります。英語はコツコツ学習を続けることがカギになります。

●数学●

・中1選抜東大・医学部数学(1MJSS)

今回のテストでは、【1】比例・反比例【2】文字と式、比例・反比例応用問題【3】合同と証明【4】合同と証明【5】座標平面総合問題 を出題しました。全体として、問題文を正しく読み取れていない答案が目立ちました。また、試験問題全体を見渡す力を鍛えていく必要性も感じました。

【1】は比例・反比例の式の値を求めるという基本レベルでもできていなかった人が見受けられました。特に(4)は反比例における x の変域を考える問題で、グラフを考えられれば気づけたところですが、安易に代入しただけの回答が目立ちました。

【2】でも、問題文の条件を正確に読むことができず、この問題を丸々失点してしまっている人がいました。条件を正確に把握する「読解力」は数学で問われる力です(将来の共通テストはこの力が最も問われます)。日頃の演習から、自分が正しく条件を読み取れているかに注意を向けるようにしましょう。ただ、その後の式変形の段階でもミスをしている人が多かったです。これも補充問題の類題です。自分で手を動かすことをしましょう。

【3】では日頃から自分で図を書きながら条件を捉えることをしているかどうかで差がつかしました。また、(1)は実は証明問題の中では一番解きやすい問題です。試験問題は必ずしも難易度順に並んでいるという訳ではありません。全体を見渡して、解けるものから処理しましょう。また、図を書くときには、必ずその背後にある図形の性質、すなわち定理に従って図を書く習慣を日頃の演習で身につけていきましょう。

【4】の証明問題は、仮定も結論も見慣れない形という事もあり、差がついた問題となりました。間違えた人は解答をしっかりと確認し、「なぜそのように言えるのか」という理由を考えることが求められていることを理解しましょう。

【5】は、後半に進むにつれ、差がつかしました。順番に解いていくことで考えやすい誘導式の問題となっていますので、やり直すときにはその点も意識しながら取り組みましょう。

・中1数学(1MJS)

今回のテストでは標準的な問題が中心に出題されましたが、普段いかに復習をきちんとしているかが顕著に現れる結果となりました。復習を重視した勉強方法をいち早く身につけることが必要不可欠です。

【1】【2】【3】は基本を確認する問題ですので、満点に近い点数を取るのが理想です。

【4】でミスが目立ったのは(3)の共有点に関する問題でした。点A、Bとの交点を求め、原点を通る直線の傾きを導いた後、実際に座標平面上でグラフの動きを確かめなければいけません。何も考えずに、出てきた値を不等号で結んである答案は減点となりました。このような問題では最後まで注意力を欠かさずに解く姿勢が大切です。

【6】の不等式に関する文章題では子供とお菓子、それぞれの式を立てて解き、数直線を用いて具体的に考えるようにしましょう。

【7】では座標の考え方と、文字の利用が解法のカギを握ります。図が複雑になり、難易度もやや高い問題にはなりますが、どのような問題にも適応できる実力をつけていきましょう。